

## 大学図書館の整備について(審議のまとめ) : 変革する大学にあって求められる大学図書館像

有川, 節夫  
文部科学省学術情報基盤作業部会 : 主査 | 九州大学総長

<https://hdl.handle.net/2324/19702>

---

出版情報 : イベント等資料, 2011-06-11  
バージョン :  
権利関係 :





KYUSHU UNIVERSITY 2011  
100th Anniversary

# 大学図書館の整備について(審議のまとめ)

—変革する大学にあって求められる大学図書館像—

平成22年12月

文部科学省 学術情報基盤作業部会

九州大学総長

有川節夫

(学術情報基盤作業部会主査)

平成23年6月11日



KYUSHU UNIVERSITY



# 学術情報基盤作業部会 委員名簿(当時)

(委員:2名)

有川 節夫 九州大学総長

三宅 なほみ 東京大学大学院教育学研究科教授

(専門委員:9名)

上島 紳一 関西大学副学長

植松 貞夫 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科長

加藤 哲夫 早稲田大学法学学術院教授

倉田 敬子 慶應義塾大学文学部教授

坂内 正夫 情報・システム研究機構国立情報学研究所長

土屋 俊 千葉大学文学部教授

羽入 佐和子 お茶の水女子大学長

山口 しのぶ 東京工業大学学術国際情報センター教授

米澤 明憲 東京大学大学院情報理工学系研究科教授

# 審議のまとめ 目次

## はじめに

### 1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

- (1) 大学図書館の基本的機能
- (2) 環境の変化と大学図書館の課題
- (3) 大学図書館に求められる機能・役割
- (4) 大学図書館の組織・運営体制の在り方

### 2. 大学図書館職員の育成・確保

- (1) 大学図書館の業務内容の変化を踏まえた大学図書館職員の育成・確保の必要性
- (2) 大学図書館職員に求められる資質・能力等
- (3) 大学図書館職員の育成・確保の在り方

## おわりに

## はじめに(審議のまとめに至る背景)

### ①大学図書館の教育機能への支援と学生の変化

- ・ラーニング・コモンズ、e-Learning、e-ポートフォリオなどの導入
- ・インターネットや携帯電話が当然となっている世代の入学
- ・高等学校における「情報」科目の必修履修

### ②大学の研究機能に対する社会の要請・期待

- ・大学が産出する学術資料を蓄積・公表するための機関リポジトリ
- ・学術成果物の電子的管理と教員業績データベース等の連携

### ③高等教育と学術研究における電子情報資源の導入、 管理、提供に関する対応

- ・「電子ジャーナル」の確保と利用促進



平成22年12月

大学図書館の整備について(審議のまとめ)

ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー

# 1.(1) 大学図書館の基本的機能

学生の学習や大学が行う高等教育及び  
学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤

(基本的機能)

- ・大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、提供を行うことにより、教育研究に対する支援機能を担う。
- ・大学図書館に蓄積された学術情報を、検索可能な形態で公開することにより社会全体の共有財産として、学術情報基盤を構築する。



基本的機能の重要性は変わるものではないが、  
現在の大学及び大学図書館を巡る大きな環境変化の中で、  
大学図書館は多様な課題に直面

## 1.(2) 環境の変化と大学図書館の課題

### ◆電子化の進展と学術情報流通の変化

- ・インターネットの普及により、インターネット上の多様な情報資源に対して、学生、教職員が容易にアクセス可能となるなど情報環境が変化。
- ・学術情報流通においても、主要な海外学術雑誌が電子ジャーナルとして普及。

### ◆大学を巡る財政面、制度面を含む環境の変化

- ・18歳人口の減少、国立大学の法人化、国公立大学の基盤的経費の削減傾向等により、我が国の大学は全体として厳しい環境。
- ・教育面では、学生の自発的な学習や実践が重要視。大学図書館に対するその支援の「場」の提供や図書館職員等による学習支援、さらに情報リテラシー教育への積極的な関与への期待。
- ・研究面では、大量の研究データを分析し成果を見出す新しい研究の在り方(e-Science)も顕著。

# 1. (3) 大学図書館に求められる機能・役割

## 1. 学習支援及び教育活動への直接の関与

ラーニング・コモンズなどによる学習支援や情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育に大学図書館が主体的に取り組むことが重要。

## 2. 研究活動に即した支援と知の生産への貢献

学術雑誌、図書等研究を進めるうえで必要な情報を確保するために、e-Scienceなどの構築・運用にあたって大学図書館側からの貢献も期待。

今後、大学全体におけるリポジトリ事業の位置付けの明確化、大学図書館業務としての定着、システム構築と維持体制の整備などが課題。

## 3. コレクション構築と適切なナビゲーション

従来は教員に負うところが大きかった学術図書等のコレクション構築において、図書館職員の果たす役割も増大。

また、大学図書館には、多様な学術情報への的確で効率的なアクセスを確保することが求められており、例えばディスカバリーサービスのような、より適切で効果的なナビゲーションの在り方を検討することが重要。

## 4. 他機関・地域等との連携並びに国際対応

大学図書館の役割を果たすためには、学内の多様な組織との連携の他、MLA連携や公共図書館との連携も重要。

また、大学の国際競争力向上の観点から、大学図書館においても、海外の大学図書館との連携や職員の国際対応能力の向上等を図ることが必要。

## 1.(4) 大学図書館の組織・運営体制の在り方

**各大学における戦略的な  
位置付けの明確化**

学内外へのアピール

**財政基盤の確立**

戦略的で安定的な経費の確保策

**専任職員及び臨時職員の配置  
並びに外部委託の在り方**

業務の中核部分は  
専門的な能力を有する人材の配置

## 2.(1) 大学図書館職員の業務内容の変化

### ◆伝統的な業務

- ①資料収集・提供関連業務(資料の収集・組織化(目録作成等)・蓄積・提供)
- ②利用者サービス業務(貸出、レファレンス、相互貸借(ILL)、情報リテラシー教育(利用案内、文献検索指導))
- ③その他業務(ホームページの管理業務、館内の整備、図書館システムの管理)

### ◆学術情報を駆使して学習・教育・研究に、より積極的に関与する専門家としての業務

- ①カリキュラムと直結した資料整備
- ②情報リテラシー教育への直接的関与
- ③研究に直結するレファレンス
- ④大学の研究成果の集積と発信
- ⑤学生・教員の間(研究者間)の学問的交流の場を大学図書館として提供するラーニング・コモンズの運用



**従来の事務職員とは異なる職種と位置付け、大学内の様々な情報管理業務に関与していくべき。**

## 2.(2) 大学図書館職員に求められる資質・能力

### 1. 大学図書館職員としての専門性

伝統的な知識と見識を基礎として、環境の変化に柔軟に適応し、大学における学生の学習や大学が行う教育研究に積極的に関与する専門性が必要。

### 2. 学習支援における専門性

各大学等において行われる教育研究の専門分野に関する知識も求められており、教育研究と密接に関わる業務を行う者は、従来の事務職員とは区別して位置付けを検討することが必要。

### 3. 教育への関与における専門性

大学図書館職員が、情報リテラシー教育に直接関わり、教員との協力の下に適切なプログラムの開発を行うことが課題。また、教員や学生とコミュニケーションを図りながら教育課程の企画・実施に関わることも必要。

### 4. 研究支援における専門性

研究者が文献に容易にアクセスできるように必要な情報資源を関連付けたナビゲーション機能及びディスカバリー機能を強化することが必要。また、機関リポジトリの構築や新たなサービスの開発など従来の専門性をさらに発展させることを期待。

## 2.(3) 大学図書館職員の育成・確保

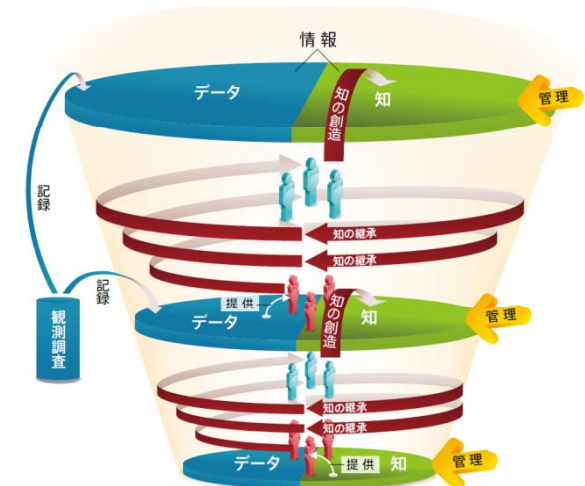
### ◆大学における養成

大学図書館を巡る状況の変化に応じて、養成すべき大学図書館職員の技能も変化しており、異なる専門性を有する人材をいかに養成していくかが課題。

#### 九大の事例

平成23年4月より、大学院統合新領域学府に**ライブラリーサイエンス専攻**を開設。

ICT 環境の真ただ中に置かれる現代情報社会の急速な進展に対応するため、**ユーザーの視点に立った情報の管理と提供を確保し、同時に知の創造と継承を支える新たな「場」(「ライブラリー」と呼ぶ)**に求められる高度な専門人材の養成を目指す。このような専攻の設置は**日本初**。



### ◆大学図書館の現場における育成

大学図書館の現職職員の育成は、研修会への参加、海外研修の実施などが考えられる。大学の規模等の事情もあることから、大学間における人材の交流など、連携が重要。

### ◆大学図書館職員のキャリアパス

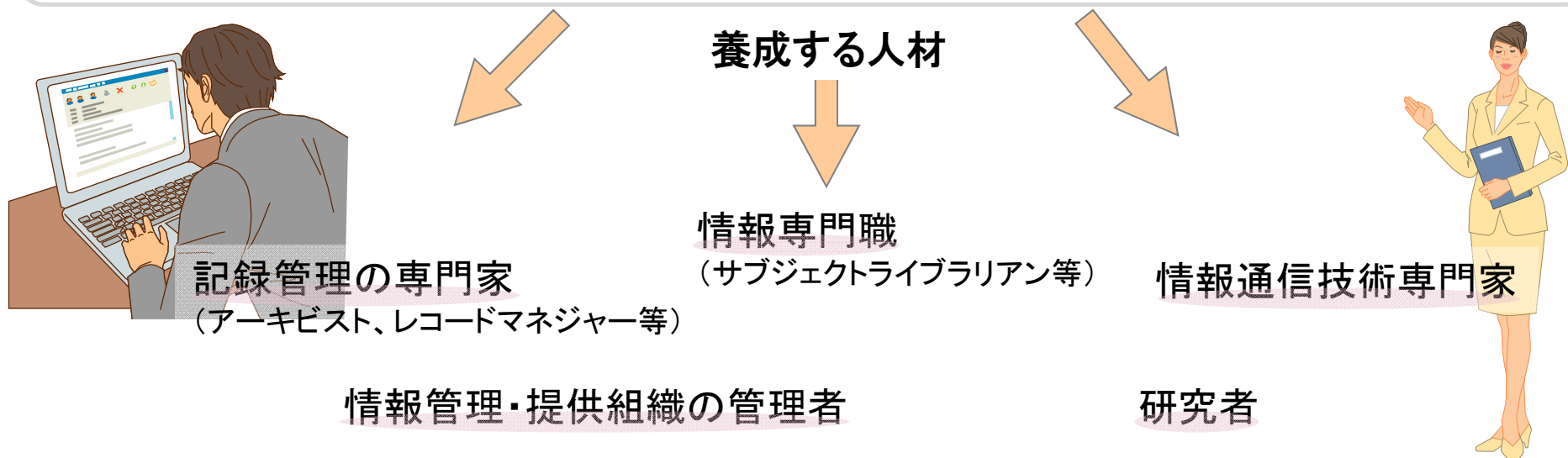
大学図書館に要求される機能を担う人材を育て、活用するためには、事務系職員とは異なった枠組みを考えることが必要。

# ライブラリーサイエンス専攻

文系と理系の枠を超えて社会の変化に対応できる人材の育成を目指す

## 教育理念・目的

1. ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
2. 図書館情報学と記録管理学を統合した一体教育
3. 情報の管理・提供を実現するための、データエンジニアリングを含む情報通信技術の教育
4. 電子媒体の情報も対象とした、情報法制とその哲学ならびに流通制度に関する教育
5. これからの情報の管理・提供のあり方やライブラリーのあらたな機能を探究させる教育



## おわりに

- ・大学図書館関係者は、各大学の事情に応じて、大学図書館機能の一層の高度化に努めることはもとより、大学の管理運営関係者には、その実現のために大学図書館の安定的な運営の確保に配慮していくことが必要。
- ・また、各大学の理念や目標を踏まえて、先進的な取組みを参考としつつアクションプランを策定することなどにより、こうした取組みを一層推進・拡大していくことを期待。

ご静聴ありがとうございました